

昔をしのぶ

1. 八つの城

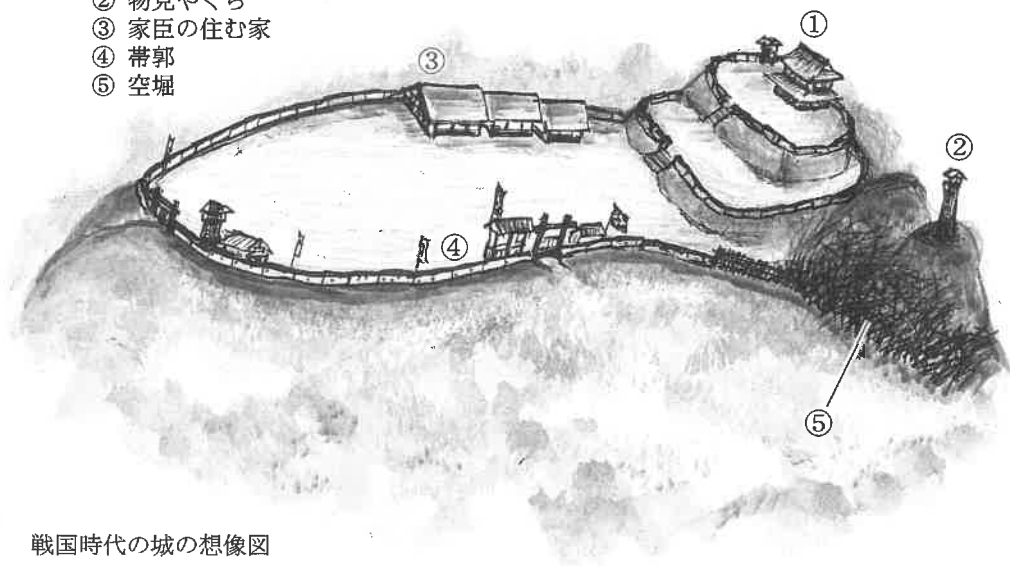
東金にあった城は、江戸城や大阪城のような
天守閣のある大きな美しい城ではありません。

山の上や小高い丘など自然の地形を利用して、
城主の屋敷と家臣の住む家などを中心に、見張
り用のやぐらを建て柵さくで囲んで、周りには堀を
めぐらした敵からの攻撃を防ぐための砦とりでのよう
なものでした。

- ① 城坂城址
- ② 田間城址
- ③ 東金城址
- ④ 小野城址
- ⑤ 酒蔵城址
- ⑥ 久我台城址
- ⑦ 大関城址
- ⑧ 家之子御所跡



- ① 城主の館
- ② 物見やぐら
- ③ 家臣の住む家
- ④ 帯郭
- ⑤ 空堀



戦国時代の城の想像図

天守閣…日本の城の中にあ
る一番高い建物で、外の
様子を見るための物見や
ぐら

① 城坂城址

東金市松之郷まつのごうの城坂しろさかに、治承年間（一一七七～八〇）頃たいらのひろつねに平広常によって造られた居城があったと『上総国誌』かずさこくしに書かれています。

現在は土塁どるいの一部が残っているだけです。

② 大関城址

かつて依古島よこじま（福岡地区）を中心にして、南白亀川なばきと真亀川まがめにはさまれた標高四〇メートルの低地に城がありました。依古島の両側には、河川あと思われる低湿地帯ていしつちたいが長く南北に伸びています。

大関城はこの自然の地形を利用した水城みずしろで、中世ちゆうせいの城としては数少ないめずらしいものでした。本丸は大関神社に、二の丸はその北部に、大手門は南方にあつて外部とはせまい木橋でしか行き来できず、城の周囲は沼ぬまなのでふみこんだら足がぬけなくなつて、城内へ攻めこむことは困難でした。

元久元年（一二〇四）げんきゅう 畠山重忠はたけやましげただの一族が、安房国あわのくにから上総国かずさのくにに移住し、畠山重康はたけやましげやすの時代に大関城に入つて、東金城の酒井氏と対立していました。酒井隆敏たかとしが攻め寄せましたが守りが固く、すぐには敗れませんでした。

平広常…千葉広常とも上総介かずさのすけ広常ともいう

土塁…土を盛りあげて築いた小さなとりで

そこで酒井隆敏は、城の周囲をとり囲み、城中の食料のつきるのを待ち、城内に矢文^{やぶみ}を打ちこんで降伏^{こうふく}をすすめました。ついに重臣^{じゅうしん}二人が同意することになり、酒井氏の軍勢^{ぐんぜい}を城中に引き入れたため、大関城は落城^{らくじょう}してしまいました。

矢文…文書を、矢に結びつけ射て飛ばすもの

③ 久我台城址^{くがだいじょうし}

松之郷の中央部の久我台に、久我台城址があります。東西約六百メートル、南北約二百七十メートルの、椿^{つばき}の葉のような形で、現在は県立東金商業高等学校になっています。

正面は西側にあつたと伝えられ、南は七曲^{ななま}がり坂に、北は鎌倉道に通じていたようです。

建長元年（一二四九）に、北条長時^{ほうじょうながとき}が房総三国^{ぼうそうさんごく}の守護職に任ぜられた時、久我台城（古賀城・古賀館ともいう）を築いて国々を治めたのでした。

その後、久時^{ひさとき}・守時^{もりとき}の三代が八十四年間居城^{きよじょう}としましたが、元弘三年（一二三三）鎌倉幕府がほろびるとともに廃城^{はいじょう}となりました。

この城は当時は、上総地方の政治・文化の中心地で、京から文化も入ってきたことが考えられます。

房総三国…上総・下総・安房

④ 小野城址

小野地区の西の台地に、今から六百年ほど昔の南北朝時代（一三三六～九二）に、城があつたそうです。

佐々木道誉が罪あつて都から追放されて来て館を築いて住んだとされますが、くわしいことはわかりません。

佐々木道誉…南北朝時代の武将。
高氏ともいう

小野川を渡つて坂道を登ると、明応七年（一四九八）に、僧日興が創建した本円寺があり、その先のくぼ地を「元屋敷」とよんでおり、佐々木氏の子孫の鶴岡家（小川戸）の住居がありました。しかし、この一帯は山砂採取でくずされてしまいました。

以前は、空堀や土塁がみられ、いくつかの郭も残っていて、北と東の高台には物見台が置かれ、ほかにも土橋や城門があつたと思われる跡がありました。

この城跡は小川戸台と呼ばれ、鶴岡氏が代々の守将だつたようです。戦国時代には東金酒井氏の支城となつていたようで、ここから土気城との間に一直線の道路が造られていたと伝えられています。

⑤家之子御所跡（尼御所）

第九十六代後醍醐天皇の皇子護良親王は、建武二年（一三三五）七月、足利直義により鎌倉の土牢の中で命をうばわれました。娘の華藏姫は都から父君を尋ねて行きました。間に合いませんでした。そこで、華藏姫は身辺の危険を避け家臣たちに守られて、直ちに鎌倉を去り、武蔵・下総をへて上総の姫島（成東町）へたどりついたのでした。

それから間もなく興国二年（一三四一）一月十六日、現在の妙宣寺の後方で二十メートルほどの高台に「宮家之子御所」を築いて移り住みました。ここは周囲二百メートルほどで空堀を巡らし、九十九里平野を見わたせる所でした。御所下とか城下谷という地名も残っています。

また、岩崎・佐藤・高科・斎田・浅葉・長井氏など北面の武士がついてきたと伝えられています。東金酒井氏からも保護されたようです。

華藏姫は父君の菩提をとむらうために尼となり、御所も尼御所とよばれるようになりしました。

そして、正平十二年（一三五七）に亡くなったと伝えられています。

護良親王…モリヨシシンノウとも読む

空堀…水のない堀

北面の武士…院の御所の北面にあつて、警護する武士

菩提…死後の冥福

⑥ 酒蔵城址（布留川家と酒蔵城）

『東金史話』によると、東金酒井氏の家臣に、古川民部少輔と古川与五右衛門という御旗奉行がいました。東金城の北方の警備にあたるため、酒蔵城を築いたといわれています。城のそばには家臣の屋敷や、百日ひでりが続いても水がかけれないという井戸がありました。円蔵寺の裏手には、空堀や土塁などのあとが残されています。

酒井氏の時代が終わると、布留川（古川）氏は土地の名主になり、城も豪族屋敷村と変わりましたが、延宝七年（一六七九）ごろは、家抱百十二人、小作九人、田地も十五町歩四反九畝（約十五ヘクタール）もありました。

現在も標高三十メートルの丘の上に屋敷山を背にした、布留川家の屋敷には、市東刑部の子の八太郎をかくまった「乗師堀」や、やがて日乗上人となった八太郎が、村人に仏の教えを説いたときの「乗師堂」などがあります。

⑦ 東金城址

古くは東金の山（丘）全体を、鵜ヶ根（鵜ヶ峯）と呼んでいたので、鵜ヶ根城とも呼ばれていましたが、酒井氏の時代から、東金城と呼ぶようになったようです。

古川…布留川の書き間違いではないかといわれる

空堀…水のない堀
土塁…土を盛り上げて築いた、小さなとりで

家抱…江戸時代、土地を分けられた後も独立しない者

日乗上人…東金に名を残した人々
86 ページ

東金城は室町時代に千葉氏の支城として造られました。康正年間（一四五〇年代）

に、千葉氏一族にあらそいが起こり、房総各地で戦乱が続きしました。

將軍足利義政は東常縁に東国平定を命じました。東常縁は東金城を副將浜春利に

平定…乱を平らげて、世の中を
平和にすること

守らせました。その後は山口主膳が城を守っていました。東常縁は武将でありながら学問・文芸を好み、優れた歌人でもありました。

大永元年（一五二一）には、酒井定隆と隆敏が田間城から移ってきました。

その後、酒井氏は五代約七十年間にわたり、東金城にいてこの地を治めたのですが、天下統一を目指す豊臣秀吉による小田原北条氏攻めで、天正十八年（一五九〇）に北条方を助けた東金酒井氏も滅ばされてしまいました。

東金城は本漸寺の裏山の、城山とよばれる標高六十メートルほどの丘の上に築かれました。

丘陵…小高くなっている所。おか

地形は丘の南から西（台方）にかけては、丘陵地帯で急斜面になっており、東は切りたつた崖になっています。かつては、前方を見おろせば九十九里平野が広がり、太東岬から刑部岬までが見渡せました。眼下には城西小学校が見えます。

眼下…目の下

城の大手門（表門）は上宿の火正神社の近くだったようです。城のからめて（裏手）は本漸寺で、本堂のおくにある酒井氏の供養塔の先を登っていくと、城山の頂上近くに三本杉とよばれる杉の太木がそびえていました。今では二本枯れてしまつ

て一本だけですが、昔は九十九里浜を出漁した漁船が、漁を終えて帰ってくる時、沖から見えるので、方角を見定める目印にしていたそうです。

ここは物見台だった所です。本丸の中心部には赤松が生えていました。

城の広さは西側のさくらトンネル（台方）の上の尾根おねの深い堀切から、東は県立東金高等学校の東の尾根おねあたりまでとされています。

本丸は東西五十メートルの五角形で、そこから一段低い西側には幅四十メートル、長さ百三十メートルの二の丸があり、本丸の南東にある小さな腰郭こしぐるわと空堀からぼりを隔へだてて、楼台状ろうだいじょうの郭くるわがあります。この四つの郭を半周する帯郭おびくるわが巡めぐらされていました。北側の本漸寺も郭でした。

寺の南のくぼ地には城主の館やかたがあり、後に東金御殿も建てられ、現在は県立東金高等学校となっています。

当時山頂の郭は、物見やぐらや山小屋・兵糧ひょうろう小屋と見張りの兵がいるぐらいで、ふだんは城のふもとや八鶴湖周辺に侍たちは住んでいたようです。

ふもとへ下る道は、台方だいかた方面へは「一の谷」という険しい間道かんどうで、もう一つの道は尾根おねにそって下り、本漸寺ほんぜんじの境内けいだいにできるようにつけられていました。

兵糧…戦いのときの兵隊たちの食べ物

郭…城、砦など、一定の区域の周囲に築いた土や石のかこい

⑧ 田間城址 たまじょうし

永正六年（一五〇九）酒井定隆は土氣城から、息子の隆敏とともに田間の要害台に城を築いて移って来ました。

城は田間神社のうしろにある、四〇五十メートルの高台に築かれました。田間から後谷に通じる道から、元の県立東金商業高等学校の北側までの一帯を城の範囲とし、深さ七メートルの空堀で南北二区に分けられています。

北には本丸らしい周囲百三十メートルの四角形の所があります。南は防衛陣地だったようですが、地形は幅がせまく城としては適さなかったと思われる。

この城は、当時の様子を残しており、城のかたちがよくわかります。

本丸の北側には、田間神社の本宮（内神）をまつり、城の鬼門にあたる松之郷金谷には、本漸寺（内寺）を建てました。酒井定隆はこの城に十二年間いて、東金城に移りましたが、この城は支城として残しました。酒井氏なき後、家臣の一部は城のふもとに住みついたそうです。

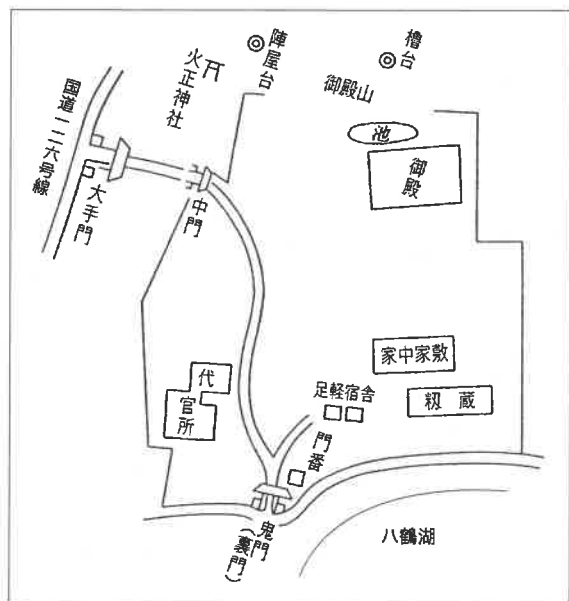
空堀…水のない堀

2. 東金御殿 とうがねごてん

「東金御殿」は、徳川家康の密命をうけ、慶長十八年（二六一三）から十九年にかけて、佐倉藩主土井利勝の命令により建てられたもので、徳川家康が二回、秀忠が七回御成りになった御殿です。

その後、寛永十三年（一六三六）に將軍家光の御成りが計画され、御殿の増改築がありました。これは中止され、御殿は、寛文十一年（一六七二）まで保存された後、一部は、小西壇林（大網白里町小西）の正法寺へ、門の一つは福俵（東金市）の本竜寺に移され、あとの建物はすべて取り壊され、將軍の居間は焼却されたといえます。

当時は、大御所様や將軍様のお成りになると、大勢のお供の人々（老職・近習・小姓・側室・女中・鷹匠・侍医・僧侶・商人等）が厳重な警護の中を行動したようです。



東金御殿の図

密命…秘密の命令

大御所様…家康のこと

3. 東金の道

道路のよしあしは、その地の文化の高低こうていを示すものといわれています。道路はまさに文化のバロメーターといえるでしょう。

古くからあった、東金付近の道路を並べるなら、鎌倉街道・御成街道・東金街道・

銚子街道等が上げられますが、ここでは、次の四つの道について説明し、鎌倉街道・

銚子街道等は省略します。

バロメーター…物事の進みぐあいや良い悪いの程度をはかるものになるもの

(1) 東金の古道 田間く台方間の市街地にあつたと考えられる古道と、わ

と古い橋 きを流れていた川にかけられていた橋

(2) 御成街道 徳川家康が鷹狩りのために作ったという船橋から東金までの道

(3) 御成新道 同じく鷹狩りのために作ったという田間から小松丘こまつのおか(成東)までの道

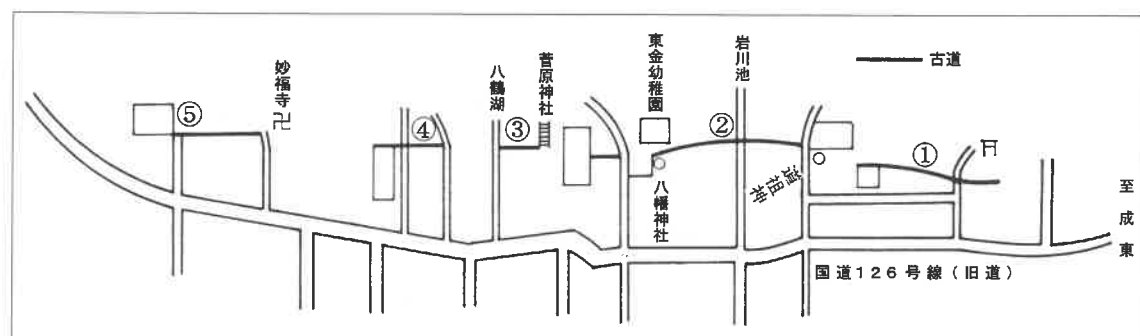
(4) 東金街道と 大和橋やまとばし(千葉市中央区)から東金までの道、千葉東金道路についてふれます。

(1) 東金の古道と古い橋

東金市の古い道についての説明は、郷土史研究家醍醐守氏の言葉によりますと、
「古道が明瞭に町道として残されているのは、①カネハン裏から白打^{びやくち}の山のふもとを渡辺英胤氏宅裏まで、②千葉地方事務局東金出張所から、南へ上行寺^{じやうぎやうじ}の下を通り内玉^{うちたま}を東金幼稚園下の屈曲点まで、③岩崎菅原神社下より八鶴湖への道路、④八鶴館下、⑤妙福寺下の公園付近より南へ百数メートルの間であらう。そしてこれらを結ぶ間は殆んど住宅の境界線となっている。多分その境界に嘗て道路^{かつ}があつたものと推察される。」

『東金市史 第五卷 総集篇』より

となり、下の図の通りで、国道一二六号線とほぼ七〇八十メートルの間隔で平行し、山麓^{さんろく}に近い点を結んでいます。途中不明な点があるが、そこに道路を予測することができます。



次に、東金市を流れる川にかかる橋について説明しますと、杉谷直道著『東金町誌草稿』には、

①東金町内五橋

ア. 鶴見橋	イ. 御成橋	ウ. 三枚橋
エ. 金橋 こがね	オ. 東橋 あずま	

②東金浜街道二橋

ア. 千鳥橋	イ. 行合橋
--------	--------

③東金里程十五橋

ア. 弁天橋	イ. 松橋	ウ. 竹橋
エ. 梅ヶ橋	オ. 千年橋	カ. 万年橋
キ. 泉橋	ク. 岩喜橋	ケ. 八幡橋
コ. 市神橋	サ. 境橋	シ. 宝来橋
ス. 豊年橋	セ. 千眼橋 せんげん	ソ. 永年橋

等の名が記されていますが、現在の詳しい場所はよくわかっていないものが、ほとんどです。

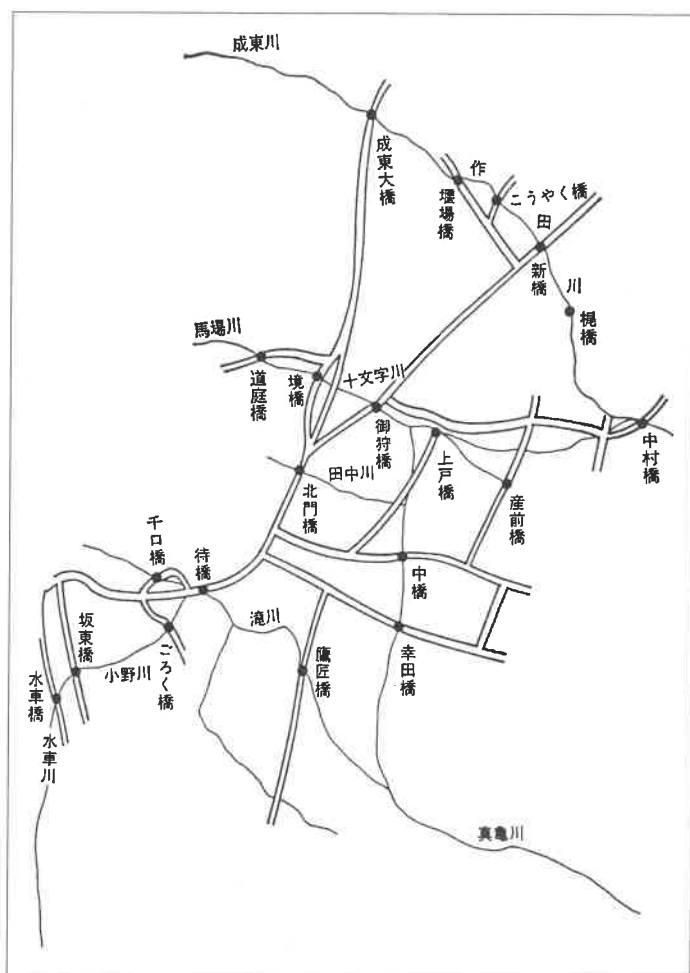
次のページに、今も残っている橋の地図をのせてあります。

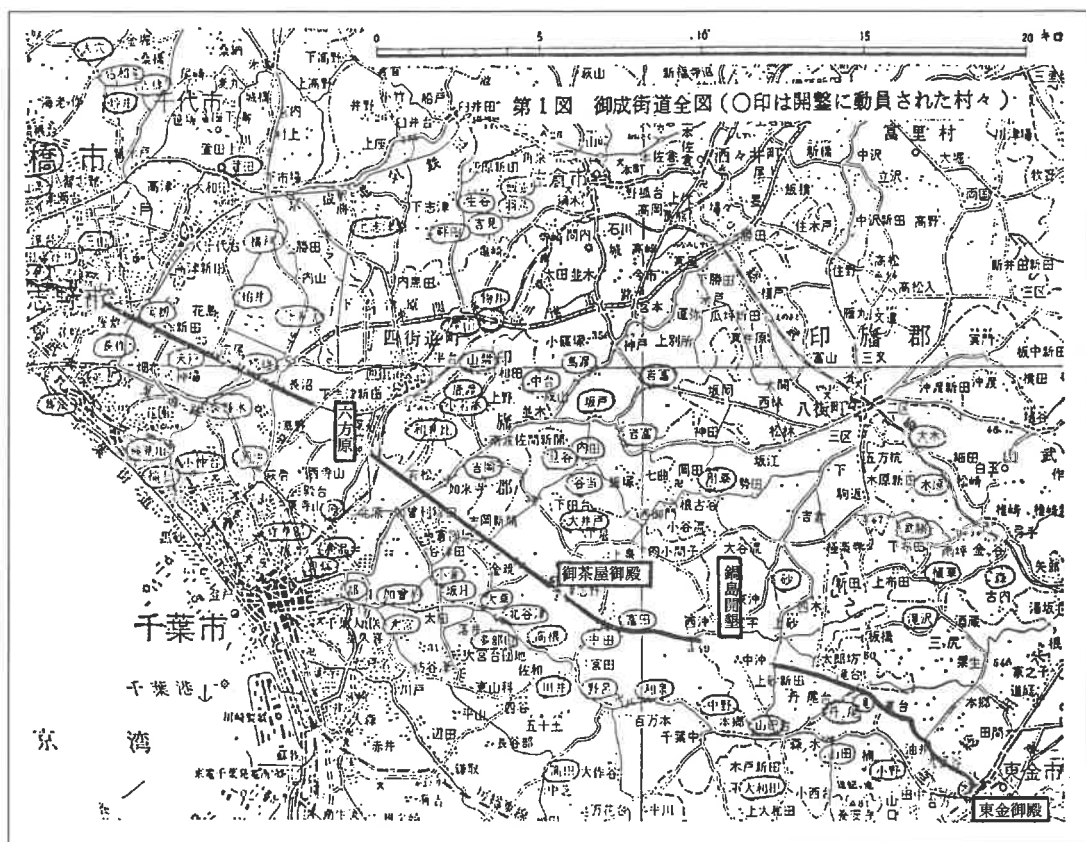
昔は村々の小さな橋にも名前がつけられていたようですが、よくわかっていません。

東金市を流れる川…作田川・真
亀川・十文字川・滝川・小野
川等がある

道のどちら側かは川になっていて、防火用水等が流れ、地区民が総出で奉仕作業をして水の流れをよくしたそうです。

東金の古い道や橋についてもっと詳しく知りたい人は、『東金市史 第五巻 総集篇』を読んで下さい。





(2) 御成街道

御成街道は、東金と船橋を結ぶ直線道路で、「東金御成街道」とも「東金街道」とも呼ばれ、その距離は約三十七キロあります。

上の地図は船橋御殿跡から千葉県立東金高等学校（東金御殿跡）までの道筋です。

慶長十八年（一六一三）十二月に、徳川家康が東金で鷹狩りを第一の目的に、佐倉城主土井利勝に命じて造らせたものです。

家康の命令を受けた利勝は、沿道九十六ヶ村もの村民を総動員して、十日〜十五日ぐらいの短期間で造ったと言われています。

なお、言い伝えでは、船橋と田間（東金）の間にのろしをあげたり、白旗と提灯を大木に掲げる方法で、昼夜を問わず作業を続けて、一夜にして完成させたとか、三日三晩で完成させたとかいわれています。今でも千葉市内には、昼は白旗、夜は提灯を掲げて目印にした大木が

立っていた場所に「提灯塚」が残っています。

これらのことから、御成街道は別名を「提灯街道」「二夜街道」「権現道」といいます。

このような大工事を短期間にできるほど、当時の武士階級の権力が大きかったことがわかります。

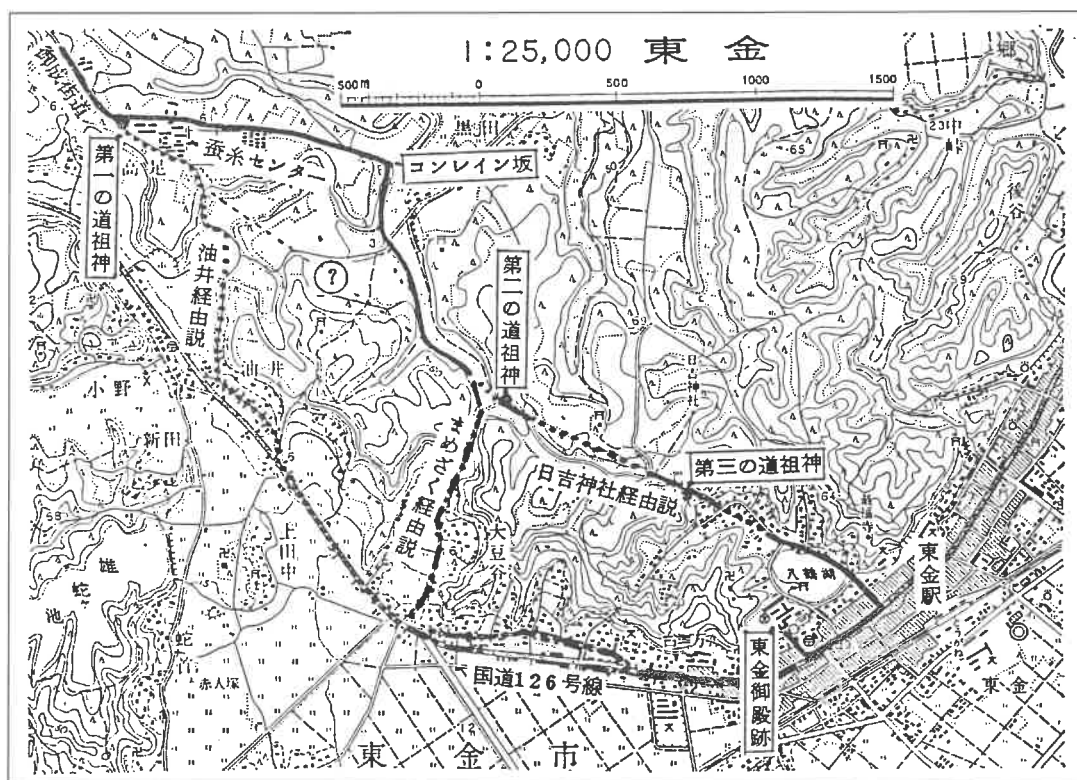
現在は、道路のところに「御成街道」という標識が立っていて、千葉市内では道筋がほぼ当時のまま残っています。

しかし、八街から東金にかけてはゴルフ場や畑で一部道筋が途絶えてしまっています。

なお、起点と終点については、それぞれ三説あります。

ここでは、東金がわの終点の三説（①油井經由説、

②大豆谷經由説、③日吉神社經由説）の地図をのせてあります。

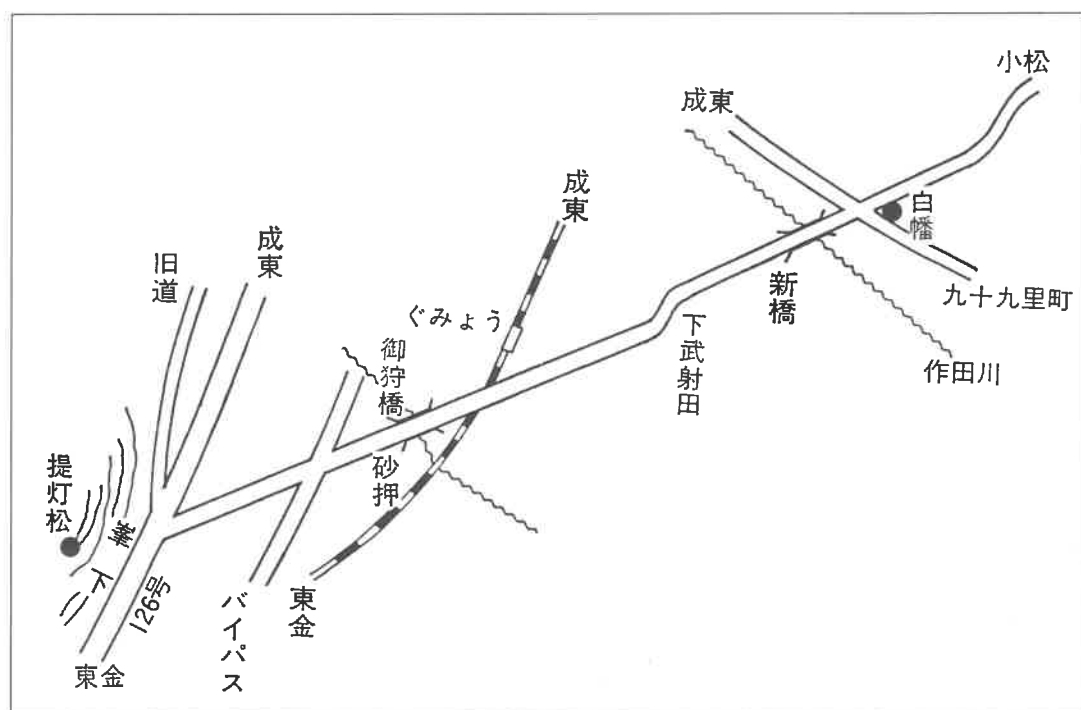


(3) 御成新道

土地の人は「砂押道」^{すなぢど}とか「砂押県道」とかいつていますが、この道も、徳川家康の命令で佐倉城主土井利勝が短期間で作り、田間字峯下^{みねした}から緑海村小松（成東町小松）までの一直線の道で二里二十町（約九キロメートル）の道路です。鷹狩りの道として作ったのですが、夜は松の木に堤燈^{ちようちん}をさげ、昼は白旗^{かか}を掲^かげて、目印^{めじるし}にし昼も夜も休まず作業をしたといひます。

昔は、堤燈松^{ちようちんまつ}という大木が千葉学芸高等学校の敷地内にあったそうで、「提灯松の碑」が建てられています。また、砂押という地名は砂を運び出したところで、そこに流れる十文字川^{じゅうもんじがわ}にかかる橋の名を、御狩橋^{みかりばし}といい、武射田^{むざた}の作田川^{さくだがわ}にかかる橋は、新橋^{しんばし}とも神橋^{しんばし}とも書くといひられています。

この道は、鷹狩りのために作られたことはもちろんですが、他にも海岸と東金の連絡路、物資を運ぶための道路といひねらいがあったようです。



(4) 東金街道と千葉東金道路

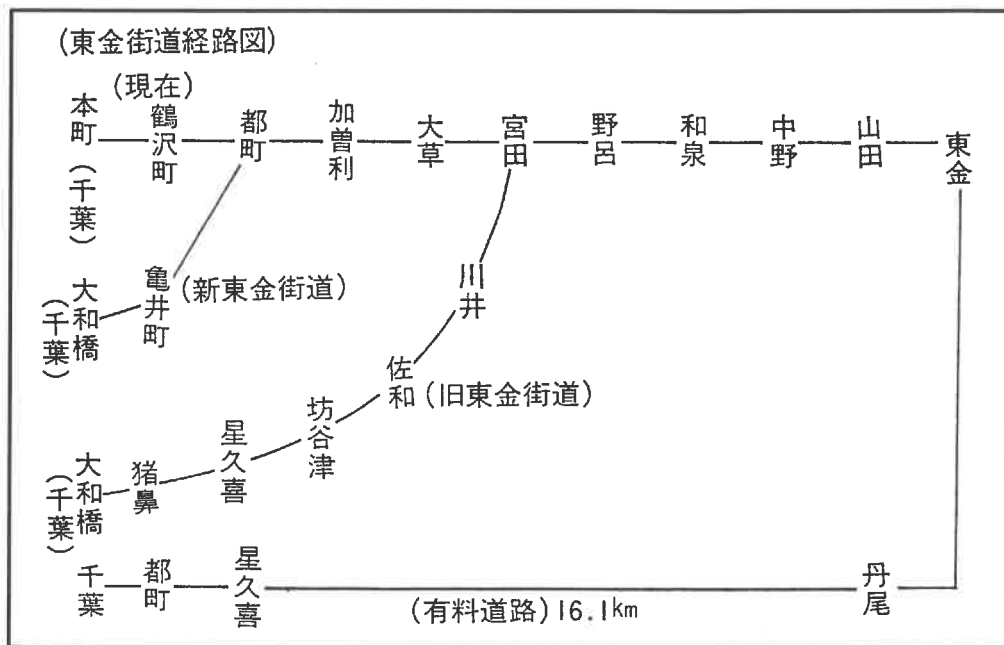
明治十五年（一八八二）発行の参謀本部陸軍部測量局の二万分さんぽうの一地図「中野村」を見ると「銚子より千葉にいたる道」として、
中野村―和泉村―野呂村―中田村あざ字宮田―川井村―佐和村―千葉町となっています。

ですから明治十五年以前の東金街道は、現在の国道一二六号線とは多少異なっていたといえるでしょう。

この道の建設期間は明らかではありませんが、多分明治中期以後といわれています。

現在の東金街道の経路は図のようになっており、昭和五十四年（一九七九）三月にできた「千葉東金道路」は千葉へ出る道路としては、距離的にも時間的にも、最も短いものです。

なお、「千葉東金道路」は、二期工事が行われており松尾町まつおまち付近ふきんまで延びていますが、さらに八日市場・旭・銚子と延長する予定で、県の東総地区の動脈となるでしょう。



4. 東金市の神社

東金市内の神社で神社庁に登録したものは、八十九社あります。

地域別にみますと、東金・豊成地区が群をぬいて多く、福岡・正気・公平地区とこれに続いています。『東金市史 第五巻 総集篇』を参考にしてください。

神社の種類については、

① 熊野神社は、真言宗のお寺と関係が深く、真言宗のお寺があれば必ず熊野神社

があると言います。イザナギノミコトをまつる紀伊熊野神社の分社です。

② 八幡神社は、古くからの鉾山・かじやの神で、のちに仏教の守護神となり、

武士に信仰がありました。外敵に対する守り神とされ、一般の人達の信仰が

広まったようです。

③ 水神社は、用水関係で悩む農民の信仰が厚いようです。

④ 菅原神社は、天神様信仰によって、寺子屋教育が盛んになると、都市部で多

くまつられたようです。

⑤ 日吉神社・八坂神社は、東金には案外少なく、田間神社・貴船神社・白幡神社・

火正神社・五十瀬神社も数は少ないが由緒のある神社です。

天神・菅原道真（学問の神様として有名）の神号



日吉神社

◎ 日吉神社 (大豆谷)

日吉神社は、大豆谷の大宮台にあり、「大山咋命」という神をまつています。

社伝によれば大同二年（八〇七）僧最澄が天台の教えを広めようと東国にきて、安国山最福寺を創建した時、近江国（滋賀県大津市）の日吉神社の分霊を鵜ヶ嶺の頂上にまつて「山王大権現」といったのが日吉神社の起

こりです。

いろいろな言い伝えがあり、一つには、

むかし、鵜ヶ嶺に和泉ヶ池があり、そこに大蛇が住んでいました。その大蛇が人々に悪さをするので、山王大権現の神社を池辺に移したところ、大蛇がいなくなったので皆大喜びし、この社にお参りしようとしたところ、池のそばだったので、はじめめて気持ち悪く近づけなかったといいます。そこで、神様を池辺でなく、大宮台に移したと言われ、それが今の日吉神社だそうです。

また、今から五百年前、文龜三年（一五〇三）に大千ばつがあり作物がとれませんでした。その時、大豆谷・台方・辺田方・堀上・川場・押堀の六ヶ村の人々が神社に集まって雨乞いをしたら、雨が降ったという話などが伝わっています。

千ばつ…長い間雨が降らず、水が
かかること。ひでり
辺田方…現在の東金地区

また、承応三年（一六五四）七月に、雄蛇ヶ池に近い養安寺村（大網白里町）が、池の一部を埋め立てて田畑にしようとしたことがありました。驚いた東金領十ヶ村（台方・大豆谷・辺田方・堀上・川場・押堀・田中・山口・福俵・高畑村）は、水の流れが悪くなることを心配し、田畑に変えることを反対して、幕府に訴えでたのです。さばき（裁判）の結果、十ヶ村側の勝利となったと言います。

この時、東金領側は、訴えが認められたことに感謝して、寛文三年（一六六三）六月十五日をもつて御神徳ごしんとくに対する祭日ときめ、以後一年おきごとに祭礼をすることを神の前で誓い、今日まで実施しています。（現在は九つの地区が行っています）この祭礼は、旧暦きゅうれき六月十四日の午後神輿みこしに乗った神様が、日吉神社から大豆谷の飯宮まで、禰宜ねぎ四十五人に担かつがれておりてきて、一晩泊まるといわれています。夜になると九区の山車だしと屋台（山車、岩崎―神武天皇・新宿―神功皇后・押堀―牛若丸の三台と屋台、大豆谷・台方・上宿・谷・堀上・川場・押堀の七台）が集まり一斉におはやしをします。

翌十五日朝の八時に山車と屋台が先に、続いて神輿みこしが出発します。

十年くらい前までは、神輿は谷の坂やを禰宜四十五人と谷の青年で担いで日吉神社までいって「お山やま」になったのですが、今は砂郷すなごうからトラックで日吉神社まで帰るようになりました。

祭礼の日も、次のような理由で、七月の最後の土曜日・日曜日に変わりました。

御神徳…神のすぐれた力

九区…岩崎・新宿・大豆谷・谷・台方・上宿・堀上・川場・押堀

禰宜…神主の下に位する神職。また、神輿を奉持する氏子

・車が多くなり、道路が混み通行止めをしなければならぬ

・土日でない、勤めや学校があり大人も子供も参加できない

日吉神社の表参道の杉並木は、箱根・日光等の杉並木にくらべられるほど見事で樹高三十八メートルの杉を最高とし、右に二十二本、左に十七本が参道二百メートルの間に並んでいます。

表参道の杉並木…身近に感じる
東金の歴史 61 ページ

◎ 田間神社 (田間)

国道一二六号線の旧道ぞいに、田間神社があります。昔は、枝ぶりのよい松が、道の上に枝を伸ばしていて、「松の覆いかぶさっているところ、その左手が田間神

社だ」と言えばすぐわかったものでした。寛政(江戸時代)の三奇人の一人、高山彦九郎が「東金の東出口田間に第六天の社あり」と「北行日記」に記しています。

「第六天」とは、酒井定隆が息子の隆敏と共に永正六年(一五〇九)土気より移り田間城を築いた時城内にまつり、その後田間神社に合祀された神です。

祭礼は、旧暦八月十五日に行われます。これは、社殿の新築の年と神輿の出来た年が享保十七年(一七三二)



田間神社

合祀…二柱以上の神をひとつの
社にまつること

と同時期であった事から、祝賀の式典が行われたのではないかとわれています。

田間地区では、お神輿みこしを担かつぐ禰宜ねぎという役やくが、代々同じ家に引きつがれているのが一つの特徴ですが、これは神輿みこしを寄進きしんした、小安彈正忠が江戸からこの神輿を東金まで運ぶのが大変だったため、田辺外記たなべぎに協力を求め若者数十名を選び、昼夜兼行ちゅうやけんこうで運んだものと伝えられており、その若者の家が禰宜ねぎの役をうけついでいるといっています。

田間の祭りは以前は二日ばかりで行いましたが、今は朝六時頃から巡行じゆんこうがはじまり一日で終わります。最後は「お山やま」といって、急な石段を登り神社まで帰りますが、疲れ切った身体でお神輿を担かつぐ禰宜ねぎに敬意けいいと大きな拍手がおくられ、祭りが終わるのです。

◎ 浅間神社せんげんじんじや（東金とうがね）

岩川池畔の山頂に建つこの神社は、「あさま」と読む人もいますが「せんげん」と読むのが一般的のようです。古い時代には、「千眼天王せんげんてんのう」とも呼ばれていたようです。



田間神社の祭礼

昼夜兼行…昼も夜も休まずに急いで、物事を進めること

巡行…方々を巡り歩くこと



浅間神社

祭神は「木花開耶姫」このはなさくやひめ「大己貴命」おおなむちのみこと（大国主命の別名）の二柱です。

浅間神社は、子育ての神として崇敬すうけいされており「せんげんさま」といって、毎年六月三十日の夜行にぎわわれている祭は大変賑にぎわつています。

この浅間様は、東金市では新宿・松之郷・砂古瀬しんしゆく まつのこう いさごぜ等にあり、ほかにも松尾町や千葉市稲毛区等の浅間様なども有名です。

◎ 火正神社（上宿）かしやうじんじや かみじゆく

火正神社は御殿山ごてんやまの一角にあります。祭神は「迦具土神」かぐつちのかみ（火産霊神の別名）ほむすびのかみといい、火を司つかさどる神です。

元禄十一年（一六九八）の創建といわれています。

社名は、はじめ「火消大明神」と呼ばれていたそうですが、宝暦十年（一七六〇）には「火正大明神」と呼ばれており、明治以降「火正神社」と改めたよう



火正神社

柱・神様を数えるのに用いる言葉

す。

祭礼は隔年かくねんの一月二十八日で、神輿みこしは享保十八年（一七三三）一月の建造けんぞうといわれています。

隔年…一年おき

◎ 八坂神社（松之郷）

八坂神社は、明治以前は牛頭天王宮ごずてんのうぐうまたは八坂大神といい、一般には天王様てんのうさまとして親しまれています。

「八坂神社略歴りやくれき」には「祭神健甕速須佐之男命さいしんたけはやすさのおのみこと、勧請年紀不詳註記かんじょうねんきふしやうちゆうき正応二年（一二八九）字久我台あざくがだいヨリ字本村二遷座あざほんむら せんざ」とあります。これは、既に久我台城があり、北条長時ほしちやながとき・久時ひさとき・守時の北条三代のうち久時の頃に、今の場所に移し替えたということです。

牛頭天王ごずてんのうとは「スサノオノミコト」の事で、この神社の神使しんしは「牛」となっています。

神使…神の使い



八坂神社

祭礼さいれいは、旧暦の正月七日と六月七日ですが、現在は旧暦ではなく、一月七日と七月七日に行っています。参拝さんぱいする人は一時期おとろえましたが活気を取りもどし、年々参拝客が増えているようです。

今の神社は、元禄五年（一六九二）に新築されたもので、貴重な建物です。
なお、境内にある銀杏・本殿・神使一对（牛）などが、文化財として、市の指定を受けています。

◎ 武射神社（上武射田）

この神社は、上武射田入会地無番地にあつて、祭神は「大己貴神（大國主命の別名）」を主神として「面足命」と「惶根命」をまつてあります。

遠い昔に武射（牟邪とも書く）の国造によつて、創建されたと伝えられておりますが、はつきりしたことは不明です。

武射神社では、由緒ある「夏越しの神事」が伝承されています。「夏越し」とは、陰暦の四・六月が夏で、七月一日からは秋ですから六月三十日のことを言います。こうした季節の境い目に「夏越しの祓」という半年間の汚れをはらう厄よけの神事が行われてきました。

この神事は、

- ① 上・下武射田の両区長、総代人等大勢の人が集り、神官によつて行事が進められます。

- ② 前日、役員等によつて用意された浅茅の大輪（直径二メートル）を大鳥居の

国造…古代の地方官僚

夏越しの神事…身近に感じる
東金の歴史70ページ

浅茅…チガヤ（野草の一種）のこと

中央につるし、これをくぐって拝殿に進みます。

③ 拝殿で、人型の切り紙などで身体を清め昇殿し、左右の介添人のあげる小輪（直径一・三メートル）の輪をくぐって進みます。

④ この時介添人は、次の和歌を二回朗詠します。

「水無月の夏越しの祓する人は、

千歳のよわひ 延ぶというなり」

⑤ 昇殿者は玉串を奉奠して順次進み、お神酒を
いただいてさがります。

⑥ 役員は、当日使用された玉串・輪・人形等を
神社前を流れる作田川に流し、「みそぎ祓え」
の神事を行って終ります。

この人形は、前もって用意され各家庭に配っておき、家族みんなの名を書いて、
当日参拝者が、神社に持参することになっています。

なお、この人形はわらで作っていたのですが、その後紙づくりになったようです。
こうした神事は、北九州や中国地方の山口県等でよく行われていて、だんだん東
の方へ移ったと考えられます。



夏越しの神事

「水無月の…」…六月の夏越しに
体を清めて過す人は、千年も
寿命が延びるということだ
奉奠…つつしんで供えること

◎ 稻生神社 (広瀬)

この神社は広瀬字入江にあり、「稻蒼魂命」をまつた神社で享保十三年（一七二八）に創建されました。この神社とともに、家徳地区の八幡神社は享保十七年（一七三二）の創建で、共に塚崎新田の開発に関係した両地区の鎮守です。

この稻生神社境内に「田畑見乃塚」という、小さな碑が立っています。

周囲の田畑の様子をながめた地点のようで、この小さな碑は広瀬家五代伝三郎兼直とその友人太谷八松が建てたものです。そこにはこの塚の由来と次の歌が残されています。

伝へおく　こころは花の　折々も

業怠らで　田畑見乃塚

兼直

幾世々の　秋にも尽じ　田畑見の

塚にながむる　稲の穂の波

八松



田畑見の塚

塚崎新田…身近に感じる東金の歴史73ページ
鎮守…その地区を守る神または社のこと

「伝へおく…」…子孫に伝えておく、花咲き、心うかれるときも、先祖の開拓した土地の苦勞を田畑見の塚を見るたびに、思い出すように
「幾世々の…」…幾年月、めぐつて来る収穫の秋、田畑見の塚に立って眺めれば見渡すかぎり稲が実っている

◎ 貴船神社 (山田) と六所神社 (小野)



貴船神社

貴船神社は、山田字大立寺台にあり、「玉依姫命」を主祭神として農業・漁業を守る神とされますが、祭神については、二神をまつるといふ説と三神をまつるといふ説があります。

西行の伝説のある「墨染の桜」から、わずかの距離にあり、境内にある大杉の木と正月四日に行われる、「御神的事事」で有名です。

ここから、少し離れた字岡の谷に六所神社があり、その

境内にはこの神社が勧請された時(天正年間)に植えられたという杉の太木があります。秋祭りに演じられる「表谷鞆鼓舞」と共に有名です。六所神社は「イザナギ・イザナミ・姫子命・大日貴霊尊・月読尊・少彦名尊」の六柱の神をまつています。



六所神社



表谷鞆鼓舞

西行…鳥羽院に仕えた武士。二十三歳のとき出家、多くの歌を残した

御神的事事…身近に感じる東金の歴史78ページ

勧請…神仏を他の地に移し、神社やお寺を建てること

表谷鞆鼓舞…身近に感じる東金の歴史78ページ

柱…神様を数えるのに用いる言葉

5. 東金市の寺院^{じいん}

東金市のお寺は、全部で五十九か寺あると言われています。これを宗派別にかぞえてみますと、千葉県で生れた日蓮^{にちれん}の開いた日蓮宗^{にちれんしゅう}のお寺が五十六で、あとの三つは空海^{くわかい}の開いた真言宗^{しんこんしゅう}と、最澄^{さいしやう}の開いた天台宗^{てんだいしゅう}と、栄西^{えいさい}の伝えた臨済宗^{りんざいしゅう}の寺がそれぞれ一つです。

この五十九のお寺のうち、三十一か寺は、J R東金線を境にして西側の丘陵地帯^{きやうりやうちたい}、二十八か寺は、東側の平野地帯にあります。

ほとんどが、日蓮宗なのは、長享二年（一四八八）領主酒井定隆^{りやうしゆさかいさだたか}によって、領内のほとんどの寺院が日蓮宗（顕本法華宗^{けんぽんぽっけしゅう}）に改宗^{かいしゅう}させられた名残^{なごり}を示しているものといえるでしょう。

では、なぜ酒井定隆^{さかいさだたか}は、領内のお寺ほとんど全部を日蓮宗に改宗してしまったのでしょうか。これについては、次のような話が伝えられています。

まだ仕官^{しかん}する主人^{しゆじん}のいなかった酒井定隆は、安房^{あわ}の国（南房総）に里見^{さとみ}という殿様がいることを知り、品川港から船にのって、東京湾^{わん}を安房^{あわ}の国に渡るうとしました。

その日は晴れた日であり、穏やかな日でした。波はなく、船は畳^{たたみ}の上をす

べるように進みましたが、海上を三里ばかり進んだ時、南の方に黒い雲が一つ小さく浮かんだと思ったら、それがたちまち大きな雲のかたまりになって、風が吹き出して大風になってしまいました。海は大あれにあれ、船は上下左右にゆれて、今にも沈没するのではないかと思われるほどで、船に乗りあわせた人たちはあまりの恐ろしさに、「あれよ、あれよ。」と泣き叫ぶばかりでした。

この時、一人の僧が、船のへさきに立って、神仏に祈りをささげ、合掌して、静かにお経を唱え始めたのです。その声は、雨、風、波音などに消されてとどえがちだったのですが、しばらくしますと、お坊さんの声は、そうした風、波、雨をふきとばすように、一つの経文となつてきこえて来ました。それは、安房の国に生まれた日蓮上人が、かつて清澄山上に立って唱えていた法華経の経文だったのです。

「南無妙法蓮華経」「南無妙法蓮華経」「南無妙法蓮華経……」

乗り合わせた人々も、お坊さんの声にあわせてこの経をとねえ始めました。その声は、やがて一つになって、海の上を流れて行きました。そのためかどうかはわかりませんが、すこし風がやんで来たように思えたのです。

皆はほっと安心しました。やがて海は静かになって、心なしか空も明るくなってきました。

酒井定隆は、このお坊さんの姿を見て、「これは普通のお坊さんではない」



海上の難

と考え、そのお坊さんに話しかけました。

「今、師しの法力ほうりきにより、万死ばんしを免まぬかれる。願ねがわくは我われ、武運長久ぶうんちやうきうの術じゆつを得えん」と。
するとその僧は、

「妙法の信仰しんこうこそ、武運隆昌ぶうんりゆうしやう 所願満足しよがんまんぞくならん」と、言いました。

定隆は大変喜んで、

「吾もし功なり望み達せば、必かならず今日こんにちの恩おんにむくい、領内悉く改宗せしめん」と言つて、「南無妙法蓮華經」を唱えたといひます。

船は浜野はまの（千葉市稲毛区浜野町）にとまり、僧はここで再会さいかいを約束やくそくして別れました。

酒井定隆は、後のちに安房あわの里見義実さとみよしざねに仕え、中野城主なかのじやうしゆから土氣城主とけじやうしゆとなり、さらに東金城主となりますが、土氣城主の時、長亨二年（一四八八）五月十八日、領内に改宗令を布しいて領内すべてを、法華宗に改宗したといひ伝えられております。この時の僧こそ後に、浜野はまの（千葉市）に本行寺ほんぎやうじを建立こんりきうした日泰上人にったいしやうにんでした。

次に、東金市の主なお寺をいくつか紹介します。その他のお寺については、『東金市史 第五卷 総集篇』を読んで下さい。



最福寺

◎ 最福寺（東金）

安国山最福寺は大同二年（八〇七）に僧最澄により八鶴湖畔に建てられた、東金で最も古いお寺であるといえます。

しかし、文明十一年（一四七九）に改宗して、天台宗から顕本法華宗にかわって、寺の名を「西福寺」と改めました。その九年後、酒井定隆は領内のお寺すべてを改宗令によって法華宗にしました。天正十九年（一五九一）には、寺領三十石の御朱印寺となりましたが、昭和二十年（一九四五）もとの「最福寺」の名にかえりました。ですから、この寺の表記は、大同二年（八〇七）から文明十一年（一四七九）までは「最福寺」、昭和二十年（一九四五）までは「西福寺」、それ以降は「最福寺」となります。

また、裏山に山王神社もつくられましたが、今は山王神社は日吉神社として日吉台に移っており、昔の山王神社は「古山王神社」として鵠ヶ嶺山頂にまつられています。

最福寺には、歴代の名僧の供養塔・知名人の墓碑・記念碑・句碑・歌碑等がたくさんあり、東金の歴史や文化人について知ることができます。



本漸寺

なお、このお寺には次のような寺宝があります。

- ① 智者大師画像
ちしゃだいしがぞう
- ② 釈尊入滅涅槃像
しゃくそんにやうめつねはんぞう
- ③ 大黒天像
だいこくてんぞう
- ④ 日蓮聖人筆、尺牘
にちれんしょうにんひつ せきしやく
- ⑤ 聖徳太子像
しょうとくたいしぞう

また、客殿裏の築山には沙羅双樹や多羅葉（葉書の木）など珍しい木があります。

◎ 本漸寺（東金）

鳳凰山本漸寺といい顕本法華宗に属し、最福寺と並ぶ由緒のある寺です。

この寺は、東金城主酒井定隆の菩提寺として建てられた寺です。酒井氏は土気から東金に移りましたが、最初は田間神社の裏山に田間城をつくり、そこに住んだといいます。この寺は最福寺と同様、天正十九年（一五九一）に、寺領三十石の御朱印寺となりました。この寺には、酒井氏一

寺宝①②③…身近に感じる東金の歴史58ページ

尺牘…手紙や書状、文書のこと

沙羅…ナツツバキのこと

菩提寺…一族が代々葬式・供養等をする寺

御朱印寺…江戸幕府が、寺社にたいして朱印状を渡し、その所領を確認した寺

族の墓碑や、名僧、著名人たちの歌碑や句碑などがたくさんあります。

なお、寺宝の鐘や、古文書、乾龍文庫などもあります。

乾龍文庫…日乗上人（養徳院
乾龍）を記念して設けられた
文庫。養徳文庫とも呼ばれる。

◎ 上行寺（田間）



上行寺

田間にあり高福山上行寺といえます。古くは、真言宗でしたが、久我城にいた北条久時が、日弁上人という日蓮上人の高弟のすすめにより、法華宗に改宗しました。正応二年（一二八九）のことです。

高弟…弟子の中で最も優れた人

もともと、上行寺は北条氏の菩提寺として、久我城の一角に建てられたものですが、北条氏が滅亡するとさびれ、享保年間（一七一六～一七三五）二十四世住職日寛の時に現在の田間の地に移りました。

その後も何度か、火災にあい古いものは失われてしまいました。

現在の本堂は、平成三年（一九九一）に建てられています。

毎年四月八日には、花祭りが盛大に行われ、稚児行列でにぎわう事で有名です。

稚児行列…寺院や神社の祭礼に
子どもたちが着飾って参加す
ること

◎ 妙徳寺みょうとくじ（北之幸谷きたのこうや）

常在山妙徳寺といつて、顕本法華宗・上総十か寺の一つです。

寺伝によると、正応元年（一二八八）に僧天目によって創建され、その時何宗であつたかは不明で、その後今の宗派になったといわれています。天目という人がどんな人かは全くわかっていません。

ただ、酒井定隆が改宗令を出して二十年目、永正四年（一五〇七）に日連宗に改め、永正五年（一五〇八）日秀の教えを守つて、酒井定隆は髪をおろして清伝入道と号して、この寺に隠居いんきょしたのです。そのためお寺をなおし、堀を寺の内外にめぐらして、外敵から身を守ることにしました。

しかし、定隆がこの寺に入ったのは大永元年（一五二二）という説もあります。この寺の隆盛時には、末寺が十八もあったと言いますが、酒井氏の滅亡により、今は四つしか残っていません。

◎ 元福寺げんぷくじ（道庭どうてい）

道場山元福寺といい、道庭にあります。顕本法華宗に属し、本漸寺の末寺です。この寺は、もと他の宗派でしたが、酒井定隆の改宗令に反対したため、追放され



妙徳寺

隆盛…栄えること。勢いが盛んなこと
末寺…本寺に付属する寺

てしまいました。そこに本漸寺の三坊が置かれてましたが、安永八年（一七七九）当時の住職日由が、これを一つにし、もとの寺号の元福寺になおしました。

また、この寺には、五層の小さな石塔があり「三介の塔」と呼ばれています。三介とは三浦介義澄、上総介広常、千葉介常胤の三武将をさします。

今はこの寺の裏山は、県立農業大学校となっており、校内を通り急坂をくだると立派な山門前に出ます。

◎ 妙宣寺（家之子）

妙宣寺は家之子にあつて、華藏山妙宣寺といい、日蓮宗に属します。もとは、海

岸寺あるいは尼御所といわれ、開基は円教大姉で、以下十世まで尼寺でした。

開基円教大姉は、護良親王の息女華藏姫といわれ、ここで亡き父の冥福を祈ったといわれます。この付近には、姫島という地名や、姫塚という塚など、この姫に関係のあるものが残されています。見事な大絵馬もあります。

伊藤左千夫が「春の潮」という小説を書いています。この妙宣寺の仁王門も、小説の中に出てくるので、私たち東金の人たちには親しみ深い小説になっています。



妙宣寺



元福寺

開基…寺院や宗派を創立すること。またその僧

護良親王…モリヨシンノウとも読む



願成就寺



本松寺

◎ 本松寺と願成就寺（松之郷）
ほんしょうじ がんじょうじゆじ まつのこう

本松寺は、松之郷にあり松岸山本松寺といい、酒井定隆の改宗令によって願本法華宗になった寺で、檀家は、松之郷はもちろん、遠く極楽寺・八街市方面にまで及び、この寺の勢力の大きさを感じさせられます。

この寺の創建は、『上総国誌』などによると明応元年（一四九二）とも、永正二年（一五〇五）ともいわれていますが、寺伝・口碑によりますと、北条長時が上総の守護となり、久我台城を築いた建長年間（一二四九～五五）に、真言宗の一寺を創立したのが始まりと伝えられています。天台宗であったともいわれています。

境内は広く、名木の大榎・鼓楼・番神堂など貴重な建物もあり、境内にある住職の供養塔・墓碑・木刀塚碑など史跡・旧蹟・名所も多く、当山十七世（本山百九世）となった日勇上人の著書も現存しています。

また久我台城主だった北条久時が、弘安三年（一二八〇）に創立したのが近くにある同夢山願成就寺という寺

木刀塚碑…身近に感じる東金の歴史66ページ



妙善寺

で、枝垂桜の名所となっています。酒井氏の改宗令で顕本法華宗になり、本漸寺の末寺です。

◎ 妙善寺 (御門)

帝立山妙善寺といい、顕本法華宗です。

御門にあり、その檀家は豊成地区の一部と正気地区の大半、更に九十九里町にまであり、昔ながらの大寺の面影を

もっています。

この寺の創建は天慶年間てんぎやうねんかん (九三八〜九四六) と思われ平将門たいらのまさかどが開いたと言われています。

平将門…平安時代中期の武将

なお、妙善寺のまわりには、将門伝説の神社いつくしま (厳島神社、将門稻荷いなり)・千本杉・三枚橋・祭塚・御大日等の建物や事物がたくさんあります。なお、市指定の大銀杏おおいちようなどがあります。

◎ 妙経寺 (大沼田)

法輪山妙経寺といい、法華宗の檀林だんりんのあったところです。

檀林…仏教の学問所

もとは、田間にあつた長久寺檀林をここに移したのは、日進上人で、文禄三年（一五九四）だといひます。

十三世日乾上人の時、講堂・学寮から完成し、関東八大檀林の一つとなりました。それは、

- ① 上総沼田妙経寺（千葉県）
かずさぬまたみょうきょうじ
- ② 上総小西正法寺（千葉県）こにししょうぼうじ
- ③ 上総宮谷本国寺（千葉県）みやざくほんこくじ
- ④ 上総細草遠霑寺（千葉県）ほそくさおんでんじ
- ⑤ 下総飯高法輪寺（千葉県）しもとうさいだかほうりんじ
- ⑥ 下総中村日本寺（千葉県）なかむらにほんじ
- ⑦ 武州池上南谷院（東京都）ぶしゅういけがみなんざくいん
- ⑧ 甲州身延善学院（山梨県）こうしゅうみのぶぜんがくいん

の八寺であつて、うち六寺が千葉県です。

明治七年（一八七四）檀林は廃止されましたが、昭和三年（一九二八）に庫裏を新築し、昭和五十七年（一九八二）には本堂と庫裏の新改築が行われました。



大沼田檀林跡

庫裏…寺の台所。または住職や家族の居間

◎ 法光寺^{ほうこうじ}（田中^{たなか}）と本福寺^{ほんふくじ}（福俵^{ふくたわら}）

法光寺は宝珠山法光寺といつて田中にあります。山門は大^ま豆^め谷^{ざく}から雄蛇ヶ池に通じる市道についていて、本堂と山門の間は百五十メートルくらいありその遠望^{えんぼう}は見事なものです。

もと、真言宗に属^{さい}し西^{さい}法^{ほう}寺^じ（正源寺）ともいったようです。

寺伝によりますと、国道一二六号付近にありましたが、酒井定隆の改宗令に従わなかったため、怒りにふれ、一夜にして破壊されてしまいました。その後、日泰上人に命じて、延徳^{えんとく}元年（一四八九）に現在の場所に創建^{そうちん}されたといわれています。法華宗本山輪番上総十か寺の一つで、寺領十八石の御朱印寺となりました。この法光寺に「屋根屋日道出世の山門」という話があります。

それは、山門の屋根替えをしていた一人の少年がありました。

たまたまお寺の住職がかごにのり、供侍二人をつれて帰って来た時、少年は屋根より降りて土下座^{どげざ}して迎えたのです。この時から、少年は仏道に入ることをきめて、一心に修業に励んだのです。名を日道と改めたこの少年は、やがて法光寺の十七世住職となり、京都の本山百世の管長^{かんちょう}として、武士なら五万石の大名と同じくらしいの地位になったといっています。



法光寺

遠望…遠くを見渡すこと。またそのながめ



本福寺蔵 積迦如来立像

この法光寺に属していた寺が、福俵にある長栄山本福寺です。日泰上人の高弟日行上人が、初め真言宗の寺であったのを願本法華宗に改宗しました。

進した、しゃかによらいりつぞう積迦如来立像（像高一六三センチメートル・松の寄木造りで両手を合わせた珍しい印相）です。

初め釈迦堂を作って安置し、四月八日にはこうたんえ降誕会を行い、たくさんおんがくの参詣人さんぎにんでにぎわいましたが、今は本堂内に移されています。

また、日蓮上人坐像（像高六十七・五センチメートル・松の寄木造り・玉眼をはめ込んだ像）もあります。

◎ 薬王寺（上布田） やくおうじ かみふだ

ふろうさんやくおうじ不老山薬王寺といい願本法華宗です。漢方薬を作っていたので「布田の薬師様」とか「布田の目薬」の愛称で、県内外にまで親しまれていました。

特に、昭和の始め頃（一九三〇年頃）の九月七日・八日は、「布田の施餓鬼」だ

印相…仏の顔つき。インソウとも読む

降誕会…君主や高僧などの誕生をお祝いする行事

施餓鬼…飢えに苦しんで災いをする、鬼や無縁の亡者の霊に飲食を施すこと

と
い
っ
て
県
内
だ
け
で
な
く
遠
く
か
ら
、
お
寺
参
り
に
来
た
も
の
で
し
た
。
本
堂
の
内
外
に
あ
る
彫
刻
や
皇
室
の
菊
の
御
紋
章
入
り
の
天
水
受
な
ど
の
貴
重
な
も
の
が
多
く
あ
り
ま
す
。



薬王寺



天水受

